

令和6年10月9日  
河内長野市立長野小学校  
校長 北野 良和

令和6年度「全国学力・学習調査」「すくすくウォッチ」の結果について

秋色の候、平素は本校教育のためにご支援ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。今年度4月に本校6年生に実施しました全国学力・学習調査及びすくすくウォッチの結果について、分析(成果と課題)及び取組みをご報告させていただきます。

## 1. 学力調査の概要

### [1]国語について

#### 【概要】

設問番号	学校の平均 正答率
①一	65.8%
①二(1)	69.2%
①二(2)	51.7%
①三	58.3%
②一(1)	76.7%
②一(2)	85.0%
②二	60.0%
②三ア	26.7%
②三イ	84.2%
③一	55.8%
③二(1)	58.3%
③二(2)	71.7%
③三	71.7%
③四	65.8%

全体的に無回答率が低く、積極的に問題に取り組んでいるが、無回答率が10%ある問題もあった。

漢字の書き取りの問題に関しては、できる問題とできない問題の差が大きかった。

また、問題に取り組む意識は高いものの、選択式の正答率に課題がみられた。これは、問題や設問を十分に読み取れておらず誤答につながっている傾向が強いと考えられる。

#### 〈特に成果がみられた問題〉

思考・判断・表現等の内容では府や国に比べて正答率が高い結果となった。

目的や意図に応じて、話し合う内容を検討する問題【1一】では、無回答もなく問題に取り組むことができている。

中でも記述式の問題【2二】自分の考えが伝わるように工夫して書く問題においては、正答率が高い結果となった。これは、書くことを重点的に

校内研修で取り組んできた成果だと考えられる。

#### 〈特に課題がみられた問題〉

知識・技能の内容では、府や国に比べ課題がみられた。

話し言葉と書き言葉の違い【1二(1)】や、文の中における主語と述語の関係を捉える問題【3一】では、正答率が低く日常的に使いこなせていないことが課題である。今後、普段の授業から主語、述語を意識し、文章に書き表すよう指導していきたい。

### [2]算数について

#### 【概要】

「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」から出題された。そのうち「数と計算」「図

形」については比較的正答率が高かった。観点別に見ると、知識・技能についての問題よりも思考・判断・表現についての問題の正答率が低く、課題が見られた。

#### 〈特に成果がみられた問題〉

3(3)は立方体の体積を、その中にぴったり入っている球の直径をもとに求める問題である。「図形」の問題では比較的正答率が低く出ているが、府や全国よりも高い結果を表しており、子どもたちが図形の知識を理解しているだけでなく、それを問題に応じて活用できていることがわかる。

#### 〈特に課題がみられた問題〉

記述式の問題全般に課題が見られ、特に「変化と関係」の領域が顕著であった。4(3)は家から学校までの道のりが等しい二人の速さを、かかった時間をもとに比べる問題である。75.1%が速い方を正しく判断できていたが、「道のりが同じときは時間が短い方が速い」という根拠を記述に活用できていなかった。

今後、根拠となる知識を明確にしながら、相手にわかるように記述する場面を指導の中に増やしていきたい。

## 2. すくすくウォッチの概要

### [1]【わくわく問題】(教科横断的問題)について

#### 【概要】

観点別	学校の平均 正答率
A 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, 正しくとらえる。	70.0%
B 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに論理的に考える。	61.0%
C 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに新たな課題を考える。	72.7%
D 図や表, グラフ, 短い文章, 会話文等の内容を関連付けて, それをもとに自分の考えをまとめ, 伝える。	79.3%
E 興味・関心のある事がらについて, 意欲的に工夫して相手に伝える。	92.6%

わくわく問題の全体を通して正答率の高いものと低いものの差が激しい。特に記述問題ではすべての条件を満たすことができず、準正答になる割合が高かった。

どの問題に関しても、文章や資料が多くなればなるほど、内容を読み取ることができていない傾向がみられた。

#### 〈特に成果がみられた問題〉

身近にある問題や社会的な課題を自分の事としてとらえ解決に向けて考える問題【1-3】では、自分の考えを積極的に回答する児童が多くみられた。正答率は85.1%だった。

文章を意図的に工夫して相手に伝える事に関する問題【3-3】の正答率が高かった。複数の条件をふまえて図表に表すことができていた児童が、92.6%と高かった。

#### 〈特に課題がみられた問題〉

数々の資料から読み取り、それに基づいた思考を問う問題【3-2】に関しては、準正答率の方が46.3%と高く完全正答率が19%と低かった。共通点はみつけられたものの表に整理する際にまとめることができていなかった。

客観的に資料を分析し、具体的なダンスの工夫を説明する問題【2-3】の正答率が26.6%と低かった。3つの条件に合わせ、具体的に文章にすることが難しかった。この問題も準正答率の方が高く、34.7%だった。

## [2]理科について

### 【概要】

本校の平均正答率は、60.7%で、大阪府の平均正答率は、63.7%で大阪府の平均正答率と比べ、3%低かった。問題が11問中、正答率60%越えは7問であった。特に選択式の問題の正答率はよく、記述式の問題の正答率が低かった。

### 〈特に成果がみられた問題〉

本校の選択式の平均正答率は、65.6%で大阪府の平均正答率より、0.5%上回っていた。記述式や短答式よりも選択式の方が答えやすいという結果だと思われる。

昆虫の育ち方の順序と名称について理解する問題では、正答率が高かったことに加えて、準正答率の割合も高かった。完全な正答はしていないものの諦めずに片方の問題だけでも解こうとしているように感じる。

### 〈特に課題がみられた問題〉

記述式問題では、大阪府の正答率が34.9%、本校は27.3%と大阪府と比べて7.6%低かった。「粒子」を柱とする領域の出題問題は1問だけだったが、大阪府の平均正答率75.9%に対し、本校は、66.9%で9%下回っていた。

問1(4)の水は加熱されなくても蒸発して水蒸気となり空気中に含まれていくことを理解し、実際の現象にあてはめて考え、書き表す問題や、問2(3)②の、電磁石の磁力を強くする方法について考え、書き表す問題では、無回答率、別回答が多かった。

今後、普段の授業に用語を用いて答えさせる授業を取り入れていきたい。

## [3]児童アンケートについて

### 〈特に成果がみられた問題〉

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれています」という項目に対し、『そう思う』と回答した割合は、府内・全国を15%以上、上回っていた。

また「授業でコンピュータやタブレットを使って、自分にあった問題やドリル等に取り組むことはどれくらいありますか」や「授業で、コンピュータやタブレットを使って、プレゼンテーション資料等にまとめて発表することはどれくらいありますか」の項目では、「ほぼ毎日」と「週一回ぐらい」の合計は府を上回っている。タブレットによる学習が定着してきていることがうかがえる。

### 〈特に課題がみられた問題〉

「自分の考えをノート等にも書いている」や「先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等にも書いている」の項目では、「あてはまる」と答えた児童の合計はどちらも本校は大阪府を上回っている。しかし、「話し合いをするとき、自分の意見とほかの人の意見を比べている」や「話し合う場面で自分の考えを深めたり広げたりしている」では、府平均を下回っている。さらに本校学校運営協議会では、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目における否定的な回答率が高かった事なども協議した。

これらの傾向は昨年度も見られ、自分の考えや大事だと思ったことをノート等にも書くことができるが、意見を比べたり考えを深めたり広げたりすることには課題が残る。今後、授業中において、自分の考えを深めたり、広げたりしている活動を実感させたい。

## 4. 調査結果を受けて

### [1]学校が重点的に取り組んでいくこと

今年度も記述式の問題に課題がみられました。記述するには、複数の資料や情報を読み取り、活用し、自分の考えを書く必要があります。本校では、「考え、伝え合う授業作り～根拠を持って考え、書く力の育成～」を目指して授業に取り組んでいます。以下の5点を大切にして、日頃から児童が答えを導く過程や情報の精選を大切にした学習活動を行えるように取り組んでいきます。

- ・自分の考えをまとめたり解決方法を出したりすることができる授業づくり
- ・言語活動や学び合いの中で、関わり合いながら高め合っていける授業づくり
- ・決まった時間に決まった場所で学習できる手立てとなる、家庭学習の手引きの啓発
- ・効果的な指導のために、児童の長所と課題について、学校全体での共通理解
- ・情報機器が効果的に活用できるようにするための情報モラル学習の充実

### [2]児童のみなさんに取り組んでほしいこと

- ・宿題以外にも復習をしましょう。  
中学校に向けて計画を立てて勉強する習慣を身につけてほしいと思います。予習復習が学習のカギとなってくるので、出された宿題だけでなく、自学自習する習慣をつけましょう。
- ・得意なことを伸ばしましょう。  
情報機器を効果的に正しく活用し、身の回りだけでなく広く社会の様々な情報を収集し、興味関心のあるものを見つけ、主体的に取り組むようにしましょう。
- ・基本的な生活習慣を身につけましょう。  
食事や睡眠時間だけでなく、ゲームやパソコン、テレビ等を見る時間も自分で管理しましょう。

### [3]保護者のみなさまにご協力いただきたいこと

- ・宿題のサポート  
内容が高度になってくる分、理解度が不十分で宿題に取り掛かっても、自力で最後まで解けない児童がいます。宿題のサポートをしてもらえると、子どもが自信をもって登校できるようになるのではないかと思います。
- ・学習習慣を定着  
アンケートの結果から、家庭学習の時間が平均的に少ない傾向がありました。家庭学習の手引きを作成して配布しておりますので、参考にさせていただき、一定の時間自ら考えすすんで学習することができるよう意識した声掛けや学習環境づくりをお願いします。家庭学習の習慣をサポートしてもらえると、中学校に向けて自分で学習するという習慣が身につきます。
- ・規則正しい生活習慣  
規則正しい生活リズムにしてあげてください。特に1日3時間以上スマホ、パソコン、ゲームなどを使用している児童が多いことが気になります。使用時間におかれましても、ルールや約束の再確認をお願いします。

**子どもたちが、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につけ、各教科の学力に加え、ことばの力や文章や情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを身につけられるよう、ともに励ましの声をかけていきましょう。**